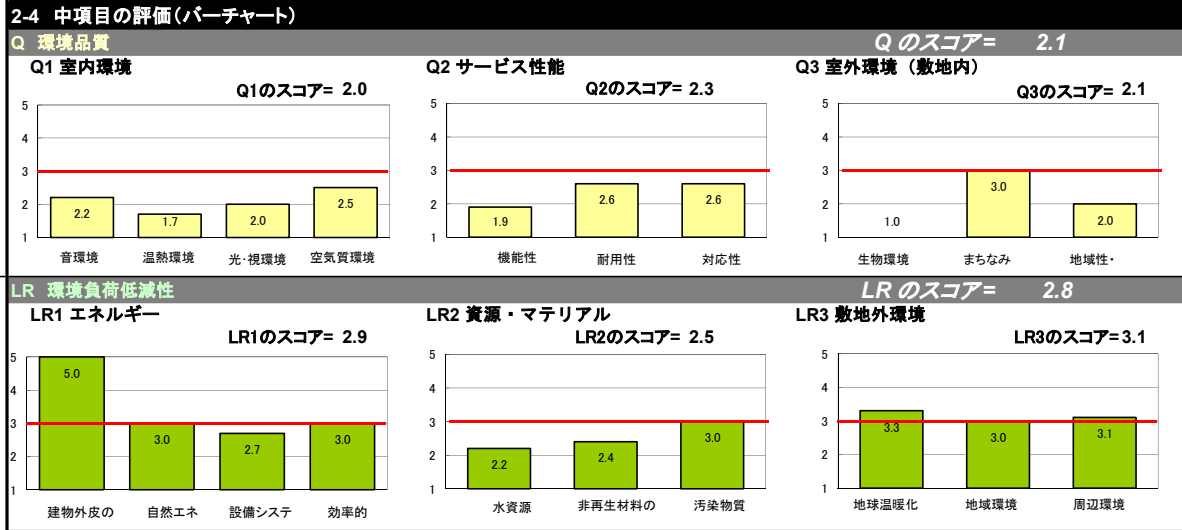
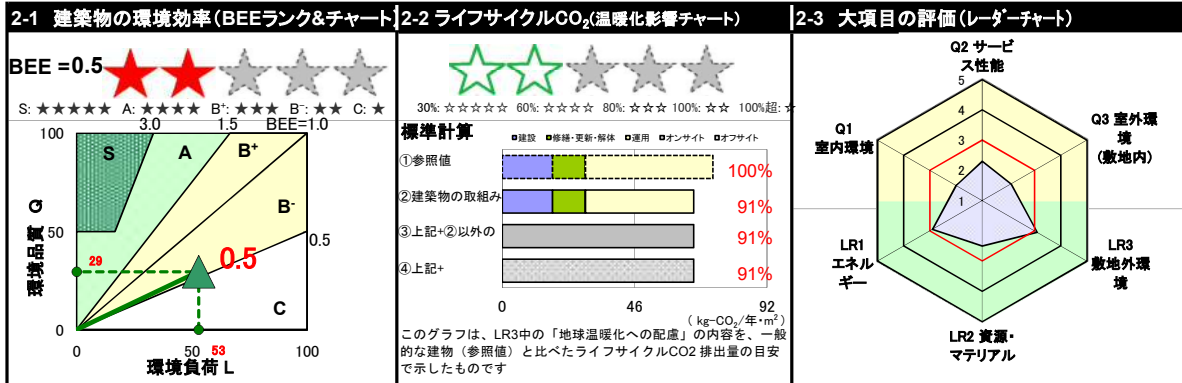


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社碧南プロセッシングセンター	階数	地上3F
建設地	愛知県碧南市港本町4-67	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	35人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,208時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2017年4月17日
敷地面積	6,998 m ²	作成者	野本常博
建築面積	3,701 m ²	確認日	2017年4月17日
延床面積	3,797 m ²	確認者	野本常博



3 重点項目

①地球温暖化への配慮 3.3	③敷地内の緑化 ###	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 21.3 % 建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 2.4	④地域材の活用 ###	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ソーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

各居室は建基法を満たす1/20の開口が確保されている

居室の天井高さは全て2.7m確保
休憩室を1%以上確保

独自

②

②

3 対応性・更新性				2.6	0.29		-	2.6
3.1 空間のゆとり				2.6	0.31		-	
1 階高のゆとり				3.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ				2.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				2.5	0.38		-	
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性				1.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39		-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								2.8
LR1 エネルギー					0.40		-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			非住宅部:[BPI][BPIm] = 0.74	5.0	0.02		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28		-	3.0
3 設備システムの高効率化				2.7	0.42		-	2.7
4 効率的運用				3.0	0.28		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-		-	
4.1 モニタリング				-	-		-	
4.2 運用管理体制				-	-		-	
LR2 資源・マテリアル					0.30		-	2.5
1 水資源保護				2.2	0.15		-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63		-	2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-		-	
3 冷媒				3.0	1.00		-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクル概算値:83%	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		独自	従業員駐車場・搬入出用のトラック置場の確保	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音		独自		3.0	1.00		-	
2 振動		独自		-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				3.0	-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明を行わない	4.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社碧南プロセッシングセンター第2工場新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:21.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社碧南プロセッシング

計画上の配慮事項	
総合	省エネ設備を採用し、室内・室外環境に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	事務所部分の温熱環境や騒音・空調等に配慮した
Q2 サービス性能	従業員の休憩スペースを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周辺に緑地を配置した。
LR1 エネルギー	設備機器は省エネ機器を採用し個別に制御できるもので計画した。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル可能な資材をできるだけ採用できるように配慮した。
LR3 敷地外環境	騒音・振動等に配慮した計画とした。
その他	特になし